

昭和南海地震の概要

E-1

昭和南海地震の概要 [徳島県自然災害誌より] 昭和21年(1946年)12月21日

昭和21年(1946年)12月21日(昭和21年)12月21日 19時45分頃、徳島県徳島市を震源とする、マグニチュード5.4の地震が発生した。震源は、徳島市から約10km南にあり、震源の深さは約10kmと推定されている。この地震は、徳島県内各地に被害をもたらした。被害は、死者2名、負傷者5名、全壊23戸、半壊24戸、倒壊した家屋の総数は47戸に達した。また、地盤の陥没も発生し、最大で約1mに達した。この地震は、徳島県内各地に被害をもたらした。被害は、死者2名、負傷者5名、全壊23戸、半壊24戸、倒壊した家屋の総数は47戸に達した。また、地盤の陥没も発生し、最大で約1mに達した。



津波状況

津波は、地震発生後約10分後に発生し、最大の高さは約1.5mに達した。津波は、徳島県内各地に被害をもたらした。被害は、死者2名、負傷者5名、全壊23戸、半壊24戸、倒壊した家屋の総数は47戸に達した。また、地盤の陥没も発生し、最大で約1mに達した。

津波は、地震発生後約10分後に発生し、最大の高さは約1.5mに達した。津波は、徳島県内各地に被害をもたらした。被害は、死者2名、負傷者5名、全壊23戸、半壊24戸、倒壊した家屋の総数は47戸に達した。また、地盤の陥没も発生し、最大で約1mに達した。

地盤沈下

地盤沈下は、地震発生後約10分後に発生し、最大の高さは約1.5mに達した。地盤沈下は、徳島県内各地に被害をもたらした。被害は、死者2名、負傷者5名、全壊23戸、半壊24戸、倒壊した家屋の総数は47戸に達した。また、地盤の陥没も発生し、最大で約1mに達した。

地盤沈下は、地震発生後約10分後に発生し、最大の高さは約1.5mに達した。地盤沈下は、徳島県内各地に被害をもたらした。被害は、死者2名、負傷者5名、全壊23戸、半壊24戸、倒壊した家屋の総数は47戸に達した。また、地盤の陥没も発生し、最大で約1mに達した。

震光現象その他

震光現象は、地震発生後約10分後に発生し、最大の高さは約1.5mに達した。震光現象は、徳島県内各地に被害をもたらした。被害は、死者2名、負傷者5名、全壊23戸、半壊24戸、倒壊した家屋の総数は47戸に達した。また、地盤の陥没も発生し、最大で約1mに達した。

震害	被害	被害
死者	2名	
負傷者	5名	
全壊	23戸	
半壊	24戸	
倒壊	47戸	
地盤沈下	最大1.5m	

E-2

昭和南海地震(1946年)の被害 [徳島市]

昭和21年(1946年)12月21日午前4時19分頃発生した昭和南海地震。徳島市の被害は、死者2名、負傷者5名、全壊23戸、半壊24戸と記録されています(徳島県自然災害誌)。しかし、この被害は、その前年に行われた太平洋戦争により、市街地中心部はほぼ廃墟となっており、住居を失った人々の多くは、一時しのぎの家を建てたり、また、別の建て直す機会もなくまわっていました。もしそうでなければ、市街地における地震の人的・物的被害はもっと大きかったと予想されます。

震度分布

震度分布は、震源から約10kmに達した。震度分布は、徳島県内各地に被害をもたらした。被害は、死者2名、負傷者5名、全壊23戸、半壊24戸、倒壊した家屋の総数は47戸に達した。また、地盤の陥没も発生し、最大で約1mに達した。



津波測上地点

津波測上地点は、地震発生後約10分後に発生し、最大の高さは約1.5mに達した。津波測上地点は、徳島県内各地に被害をもたらした。被害は、死者2名、負傷者5名、全壊23戸、半壊24戸、倒壊した家屋の総数は47戸に達した。また、地盤の陥没も発生し、最大で約1mに達した。

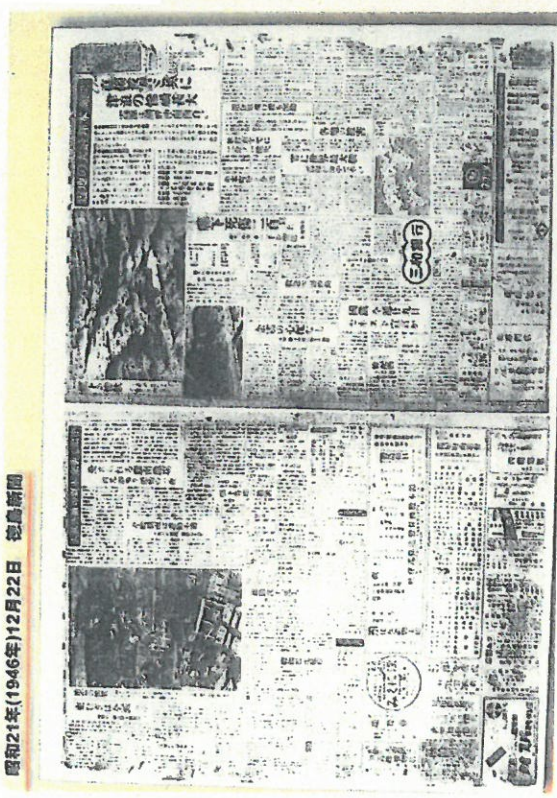


液状化現象発生地点

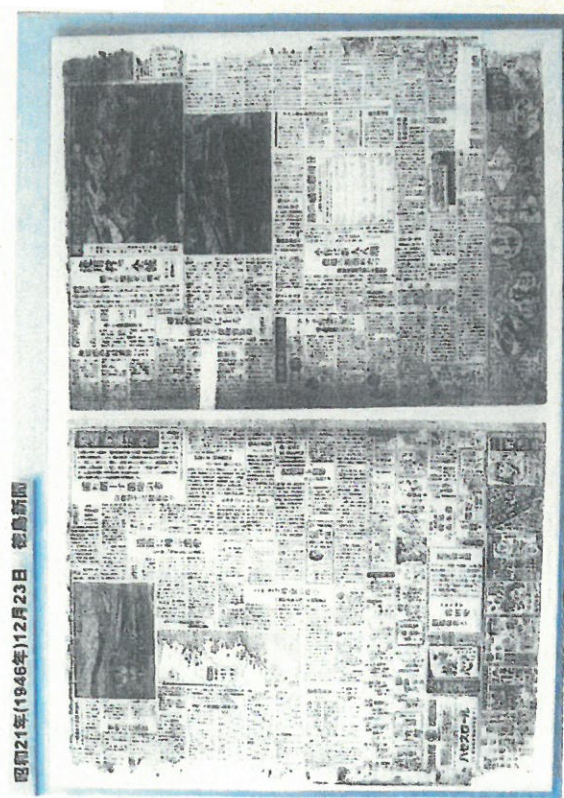
液状化現象発生地点は、地震発生後約10分後に発生し、最大の高さは約1.5mに達した。液状化現象発生地点は、徳島県内各地に被害をもたらした。被害は、死者2名、負傷者5名、全壊23戸、半壊24戸、倒壊した家屋の総数は47戸に達した。また、地盤の陥没も発生し、最大で約1mに達した。



E-3

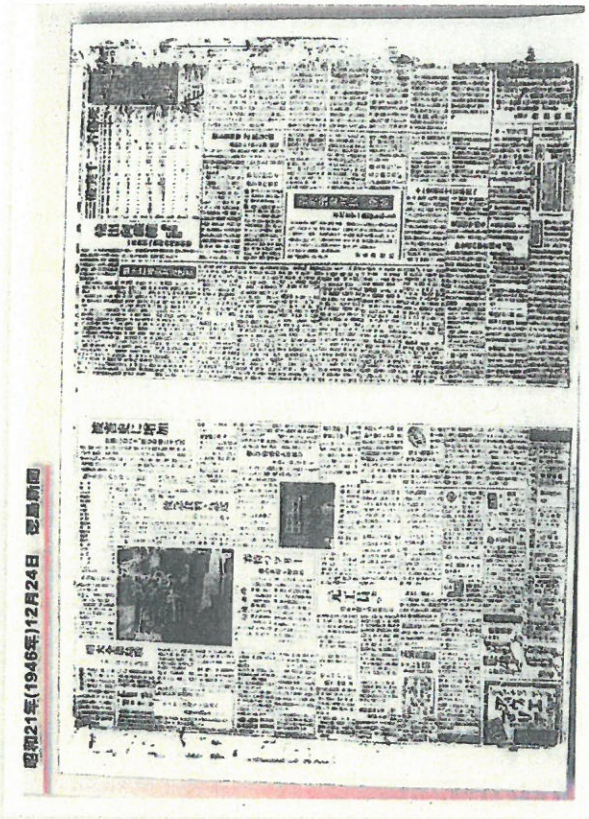


E-4



昭和南海地震の概要

E-5



昭和南海地震の被害写真

E-6



E-7



E-8

